

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
	合計	30

事業所番号	4679100190
法人名	有限会社ウイル
事業所名	グループホームたんぼぼの家
訪問調査日	平成19年11月6日
評価確定日	平成20年2月26日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4679100190		
法人名	有限会社ウイル		
事業所名	グループホームたんぼの家		
所在地	鹿児島県大島郡徳之島町亀津122番地2 (電話) 0997 - 81 - 1249		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成20年2月26日

【情報提供票より】(19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤 1人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛郷会東天城クリニック、太歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

集合住宅地域から少し離れた景勝の地に立地している。背後にはサトウキビ畑が広がり、自然の風がホームに吹き込んでくる。ホームの畑には季節の野菜を栽培し、保育園との交流と共に入居者の楽しみごとになっている。「その人にとって最適な場所での生活を！」を取り組みの一つとしており、生活の自立のめどが立てば、ホームから自宅での生活へ帰れるように支援し、この1年間で3人の人が自宅での生活に帰ることができた。施設長・管理者共にサービスの質の向上への熱意が高く、「私どもは発展途上にある」と述べている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の主な改善課題への取り組みはなされて、ほぼ改善されている。研修や人材育成についても、取り組まれているが、計画的な取り組みであれば、効果的に人材育成が進むことになる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を踏まえて、管理者・スタッフ全員で取り組み、できているところ・できていないところ・反省点や見直しなど課題を把握している。前回の外部評価もあわせて改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	<p>ほぼ、2ヶ月毎に開催し、運営推進会議での指摘や要請事項を実現に向けて取り組んでいる。「高齢者と子どもとのふれあいを推進するために、保育園との連携を進めたらどうか」との提案についても取り組んでいる。</p>
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	<p>家族の会は年に1回開催し、要望や意見を聞いている。また、面会時に家族の考えや希望を聞き、推進会議でも家族代表を委員に入れて、交わされた意見をホームの運営に反映している。</p>
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>産業祭、文化祭などほとんどの地域行事に参加し、また、地域の人が気軽に遊びに来る。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、のんびり、楽しく」を基本にした理念を掲げている。地域密着型サービスとしての理念の取り込みはまだ検討段階である。		地域の中での支援を基本とした理念を作り上げることが求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申送りやスタッフミーティングの時など理念の共有に努めている。また、介護日誌の冒頭に「～ゆっくり・のんびり・楽しく～」の記載があり、常に意識化されるように工夫されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	産業祭、文化祭などほとんどの地域行事に参加し、また、地域の人気が軽に遊びに来る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を踏まえて、管理者・スタッフ全員で取り組み、できているところ・できていないところ・反省点や見直しなど課題を把握している。前回の外部評価もあわせて改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ、2ヶ月毎に開催し、運営推進会議での指摘や要請事項を実現に向けて取り組んでいる。「高齢者と子どもとのふれあいを推進するために、保育園との連携を進めたらどうか」との提案についても取組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の入院時に有料ヘルパーを利用できるか、ホーム内に訪問看護の要請ができるか、研修会の開催協力についてなど日常的な相談やホームの現状報告など連携をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りに個人連絡欄を設けて、入居者の健康状態、生活の様子、金銭管理など写真も添えて連絡している。また、ホームに家族が来訪した時や電話連絡等でも報告している。		
8	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会は年に1回開催し、要望や意見を聞いている。また、面会時に家族の考えや希望を聞き、推進会議でも家族代表を委員に入れて、意見をホームの運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、個別担当制を基本としているが全スタッフで係わる方法を併用し、利用者のダメージを少なくするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加については、職務として派遣するように体制を作っている。資格試験受験についても推奨している。大島地区認知症グループホーム連絡協議会の研修にも定期的に参加し、復命報告もしている。		年次研修計画をたて、目的を明確にした取り組みの工夫が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区認知症グループホーム連絡協議会内で密接な交流を推進し、研修会や共同で地域啓発の催しを開催するなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と面会したり、ホームで一緒に過ごす機会を設けるなど馴染みの関係作りをしている。また、入居後の部屋についても自宅に近い雰囲気作りや、スタッフとの関係を築く時間を多く取るなど配慮が見られる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の方法や地域の風習、天候の変化、子育てや人生について、日常生活の中で教わりながら支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	柔らかい雰囲気作りをし、入居者のほとんどの人が要望や要求を表現できる状態であり、職員は、しぐさや雰囲気から本人の意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族や本人の意向を確認して作成されるが、チームの意見が反映される仕組みになっていない。		介護に当たるスタッフの意見やアイデアが反映される仕組みを作り、利用者本位の介護計画を作成することが求められる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングは行われているが、介護計画の見直しは基本的には12月であり、ケアの変更を追っかける形で介護計画の見直しが行われている。		基本的な手順に沿って、適正な見直しが行われることが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、美・理容室の利用支援、自宅訪問や墓参の支援など要望に応じ支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を踏まえた医療機関での受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については方針を決めているが、ターミナルケアについては、現在資料を収集、検討中である。		ターミナルケアについても方針を決定し、スタッフや入居者家族等とも方針を共有することが求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の介助や身だしなみ・食事の介助などさりげなく行い、尊厳やプライバシーに配慮している。個人情報についても取り扱いや守秘義務について法令を守るようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床や食事・入浴など本人の希望やペースによって支援し、趣味の活動や読書など持てる機能を生かした生活ができるようにしている。近くの図書館に書籍を借りに行く人もあり、同行してその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや後片付けなどできることをしたり、島料理やから揚げなど好みのメニューを献立に入れたりして楽しい食事になるように取り組んでいる。また、ビールや焼酎・牛乳なども楽しめるように準備してある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホーム周辺で採れる蓬などで作った薬草湯を準備するなどして、いつでも好みの時に入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を日々の係わりの中で聞き取りしながらその人が生活の中で身につけたものを活かしてもらえるように支援している。農業・食堂経営・主婦などの経験から、ホーム内での日常生活や催しごとなどで役割を担っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	コンビニまで自分でおやつを買いに行ったり散歩に出かけたりしている。希望によってドライブや買い物など随時の外出もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	研修を通じて鍵をかけることの弊害については確認できている。外出については制限をしていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	本年度は1回防火・避難訓練を実施済みで、今後夜間想定で2回目の訓練を予定している。近隣住民の参加と応援をお願いしており、協力体制もできている。台風には備えて自家発電の整備を計画中である。災害時に備えての備蓄は通常の買い置き程度である。		災害備蓄について、もう一段の検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じた調理方法を工夫し、楽しく食べられる工夫をしている。栄養バランスや水分摂取については一定の配慮をしている。		栄養バランスや水分摂取については地域の保健センターなどのアドバイスを得るなどの工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは季節の花がそれとなく配され、こざっぱりとした清潔感がある。音楽やテレビの音量も適切な大きさに調整されており、南国の強い日差しをさえぎるためにヨシズをかけるなどの工夫もされている。風通しもよく生活臭がこもらない。適度に椅子・ソファなどが配置されたりして居心地よい空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の自室をそっくりそのまま移したような部屋もあり、個々人が自分の使い慣れた道具などを持ち込み、居心地よく生活できる居室作りができています。		